

第252回

# 荒川の人

読み聞かせは双方向のコミュニケーション!  
絵本の力で出会った人を笑顔にしたい。

読み聞かせ師・絵本作家 **聞かせ屋。けいたろうさん**

【プロフィール】元保育士。JPIC読書アドバイザー。短期大学の保育学科を卒業後、2006年、道行く大人たちに向けて絵本の読み聞かせをスタート。絵本講座や保育者研修会などにも積極的に取り組む。近年は絵本作家としても活躍の幅を広げる。2014年に出版された高島純氏との共作「どうぶつしんちょうそくてい」、「どうぶつたいじゅうそくてい」(ともにアリス館出版)では原案と文章を手がけた。6月には赤ちゃん向けの絵本が2冊刊行される予定。



大きなトランクから次々と出てくる絵本に胸を躍らせる子どもたち。「聞かせ屋。けいたろうさん」(以下、けいたろうさん)のほがらかで、やさしい語り口は、まるで子どもから大人まで、すべての人を夢中にさせる魔法使用の呪文のようです。紆余曲折を経て、読み聞かせ師の道を歩み始めることになったけいたろうさんに絵本や読み聞かせにまつわるエピソードを語っていただきました。

## 子どもたちとのふれあいの中で見つけた新たな夢 読み聞かせのパートナー・絵本との出会い

けいたろうさんの本名は坂口慶。ウルトラマンとの出会いが読み聞かせ師としての活動の原点になっていることから、ウルトラマンタロウにあやかり「けいたろう」と名乗ることになりました。その出会いは、約15年前にさかのぼります。高校卒業後、ボーカリストを志すも、断念。新しい目標を見つけられずにいた当時、アルバイトをしていたのがウルトラマンをテーマにした娯楽施設でした。ここでの3年間の経験は、けいたろうさんが読み聞かせ師に「変身」していくうえで貴重な財産になっているそうです。

「子どもたちの声援を受けて怪獣に立ち向かっていくウルトラマンに勇気づけられましたし、懸命に声援を送る子どもたちを見て、何度も胸が熱くなったのを覚えています。僕にとっての学校のような場所でした」

子どもたちともしっかりと関わる仕事に就きたいと保育者を



自ら取材を重ね、動物たちの大きさの違いをユーモアいっぱい描いた「どうぶつしんちょうそくてい」は子どもたちに大人気。©アリス館

めざし、22歳にして短大へ。そこでは人生を大きく左右する絵本との出会いがありました。

「保育学科の学生は十代後半のキャピキャピした女の子たちばかり。毎回授業で絵本を読んでくださる先生がいたのですが、読み聞かせが始まるや、彼女たちがお話を聴き入っている姿を見て、絵本を読んでもらうことは子どもだけではなく、大人にとってもうれしいことなんだと気づかされましたね」

そして、卒業を半年後に控えた頃、けいたろうさんは衝動にも似た気持ちに駆り立てられ、夜の路上へ向かいます。図書館で借りてきた絵本というパートナーとともに。

## 2006年10月14日午後9時半 絵本で人とつながれた瞬間

北千住駅周辺スペースに絵本を並べ、呼び込みをしてみたものの、立ち止まって聞いてくれるどころか、道行く人からは冷たい視線が容赦なく浴びせられます。恥ずかしさや自分自身へのいたたまれなさで意気消沈しているところに現れたのが、派手な装いの2人の女子高生。彼女たちは罪のない動物たちが戦争に翻弄され、悲しい結末を迎える『かわいそうなぞう』の絵本をリクエストします。「からかわれるのではないかと内面ビクビクしていましたが、気持ちを込めて読みました。読み終えて、どんな反応してくれたのか、おそろおそろ視線を向けると、彼女たちは静かに涙をぬぐっていました。お話が心に響いたことがとてもうれしかったですし、僕たち3人が読み聞かせを通して、つながり合えたような気持ちになれたんです」

読み方や本の持ち方など、今の方が読み聞かせの技術が圧倒的に優れていても、路上にデビューしたあの日を超越する手応えと充実感はないと、けいたろうさんは振り返ります。

現在35歳。読み聞かせの活動をスタートさせて12年目を迎えました。日本だけでなく、アメリカ西海岸の日本人学校などに出向いて読み聞かせを行ったことも。ハンチングにメガネ、ウルトラマンカラーをまとった特注のタップシューズに身を包んだけいたろうさん。今では、保育

園や幼稚園などで読み聞かせの公演や保育者向けの研修も数多く依頼されています。公演のある日は自宅にある約600冊もの絵本の中からその日の気分に合わせて数冊をセレクト。ウクレレのメロディーに乗せて歌ったり、子どもたちに語りかけたりしながら、楽しい公演を心がけています。

## 肩ひじを張らずに楽しみながら 絵本を読んであげてほしい

以前から子育て支援に一生懸命取り組んでいる区という印象があったことから、4年前に荒川の街へ。

「きりんのすべり台がある三河島公園は、2歳の娘とよく遊びに行きますよ。ゆいの森あらかわは託児室もあって、安心して集える素敵な場所だと思います。読み聞かせという手段で区の子育て支援にも一役買いたいですね!」

ボーカルレッスンで養った声量、アルバイトで培われたコミュニケーション能力、そして路上で鍛えられた度胸。あらゆる経験を糧にして、力に変えてきたけいたろうさんのこれからの目標は、いい意味での現状維持だそうです。読み聞かせはスペースが大きくなってしまえば絵が見えなくなり、声も十分に届かなくなってしまうことも。ふれあえる距離感を大事にしながら、楽しいお話を子どもたちに紹介したいと、新しい絵本探しにも余念がありません。

「絵本の魅力は誰かに読んでもらえることだと思います。お父さん、お母さんには絵本を勉強のツールとして考えずに、親子の時間を楽しむツールとして子どもたちに読んであげてほしいです」

人間関係が希薄になったと言われる昨今。絵本が人と人、親と子どもの絆を強くする架け橋になってほしいと、けいたろうさんは願っています。

## INFORMATION

聞かせ屋。けいたろうさんへの公演の依頼は  
ホームページから⇒<http://kikaseya.jp/>

# 看板

宴会看板各種 ガラスマーキング スタンド看板 店舗看板各種  
～お気軽にご相談ください～  
広告宣伝株式会社 TEL:5901-9701 FAX:5901-9702  
〒116-0012 荒川区東尾久 5-42-7 E-mail:sales@kou-sen.co.jp

## ACC 友の会入会のご案内

特典  
①公演チケットが割引で購入できます  
②人気の公演チケットを一般販売に先立って購入できます  
③会員だけのお得情報が届きます

会員になると  
お得な特典がいっぱい!

会員  
口座会員 1,300円/年 ※年間で2枚以上のチケット購入で  
現金会員 1,500円/年 ※年会費以上の割引になることも!

詳しくはこちらまで  
荒川区芸術文化振興財団 ☎3802-7111

## 第36回 吹奏楽のつどい

3月11日(日)  
サンパール荒川大ホール  
午後1時30分開演(30分前開場)  
【入場無料】

◆出演団体  
峡田小学校マーチングバンド、第二日暮里小学校マーチングバンド、第三中学校吹奏楽部、第四中学校音楽部、第五中学校吹奏楽部、北豊島中学校・高等学校吹奏楽部、都立竹台高等学校吹奏楽部、都立産業技術高等専門学校荒川キャンパス吹奏楽部、青桐吹奏楽団、荒川ウインドアンサンブル、YCB荒川町屋吹奏楽団、荒川吹奏楽団

主催:第36回吹奏楽のつどい実行委員会 荒川区  
問合せ:荒川区生涯学習課 ☎3802-3111 内線3355

### 木曾路

4月19日(木)まで  
ご予約承っております。  
良い日のお席はお早めにご予約くださいませ。

## 奈良井 ならい

盛り込み(前菜・お造り・煮物、和牛あみ焼き、茶碗蒸し、揚物、御飯、汁物、香の物、デザート)  
3,000円 (税込3,240円)

### どらぶと

期間:3月28日(水)まで

## しゃぶしゃぶコース

本日の味覚とらぶ料理。とらぶ3月28日もちまして販売終了です。お見逃しください。  
先付、てっさ、ふじ唐揚げ、しゃぶしゃぶ(肉・野菜盛)、きしめん・餅、御飯、香の物、デザート

萌来【和牛ステーキ】 6,500円 (税込7,020円)  
宝旬【和牛ステーキ】 7,500円 (税込8,100円)  
豊楽【和牛ステーキ】 8,500円 (税込9,180円)

## ご宴会ご予約承ります。

※無料送迎バスをご用意いたします。※ご予算ご相談ください。

## 木曾路南千住店

荒川区南千住 5-6-15  
電話:03-5850-5567

### グラスドリンク人数分プレゼント

- 2,160円以上の料理をご注文に限りです。
- グラスドリンクを人数分プレゼントいたします。
- 他券との併用はできません。
- ご飲食前に係員にお渡しください。
- H30年4月30日まで有効
- 木曾路南千住店のみ有効